

【取組内容③】 端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実と自律的な学習に向けた取組

端末の持ち帰りで、広がる家庭学習の選択肢

タブレット端末は、日常的に持ち帰りを行っている。持ち帰りの定着を図るために「持ち帰る必要性は何か、どんなことができるのか」職員で検討を重ね、次のような取組をした。一つは、家庭学習の選択肢を増やすこと（AIドリルを可にすることなど）にした。授業の課題として、事前に家で調べ学習を行わせるケースや、授業のまとめを家庭学習として行わせるなど端末の活用を促した。もう一つは、学校通信や学年通信などをTeams上で配付することにした。家庭でタブレット端末を開いて情報を確認することを学級・学年・学校全体で意識的に取り組ませた。

取組の結果、家庭でも活用が進み、家庭学習や課題への取り組み、情報の確認などに使うことが習慣となってきた。現在ではタブレット端末の持ち帰りも定着してきている。

自立した学習者になるために

家庭学習の習慣を客観的に振り返り、自分に必要な学習を組み立てていく力（自己調整学習）を養う目的で、フォームを活用した家庭学習リフレクションを実験的に行なっている。毎朝、家庭学習の内容（教科、内容、理由、時間など）を打ち込んでいくものである。二枚の写真のように、自分が取り組んできた学習内容がグラフになり何をどれだけ、何のためにやったのかが分かるようになっている。このグラフと家庭学習のノートやAIドリルの内容を基に、教員と面談し、現在の課題や今度どのように取り組むかを考えていくようにしている。

やらされる家庭学習（ノートを埋めるだけ、答えを写すだけの学習）ではなく、必要感のある学習、自己を成長させるための学習になるように自立的に思考・判断していくことになると考えている。

